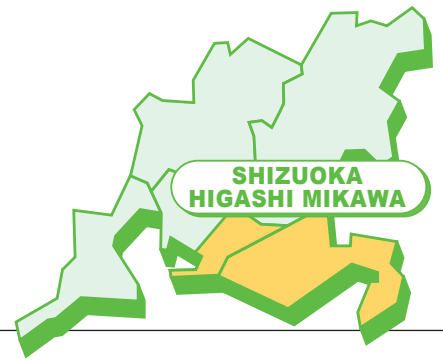


中部 だより



中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。

東三河発! 「食」「農」の新たな価値創造による地域産業活性化

はじめに

愛知県東三河地域は、温暖な気候と豊川用水の恵みに加え、交通網の整備等により、全国トップクラス※の農業産出額を誇っている。

※市町村別農業産出額(2006年)
田原市: 1位(724億円)、豊橋市: 6位(474億円)

連携組織の設立

当地域は、農業が盛んであるとともに、製造から小売に至る食品関連企業、農業資機材等の農業関連企業、支援・試験機関の集積地でもある。

そこで、それらの集積を活かして2001年に設立された「IT農業研究会」を発展させる形で、2007年に産学官の連携による「食農産業クラスター推進協議会」が設立された。現在、同協議会には約130機関が参画し、農・工・商業事業者の連携による地域産業の創出・活性化を目指して様々なプロジェクトに取り組んでいる。以下に、今後の発展が期待される事例を紹介したい。

「太陽光利用型植物工場

IGH(Innovative Green House)プロジェクト」

国産大玉トマトの収穫量向上を目指し、同プロジェクトに参画する大学1校・企業5社が有する技術を結集した、半閉鎖環境の植物工場を豊橋市内に整備し、2012年7月から実証実験栽培を開始している。

豊富に降り注ぐ太陽光を最大限に活用しながら、工場内の光、温度、湿度、CO₂、養分などを最新の設備で制御して光合成能力を最大限に引き出し、収穫量増加・品質向上を図るとともに、週単位でPDCAサイクルをまわすといった関係者の努力により、日本初となる、国産大玉トマト50トンの収穫※を2年連続で達成した。

また、実証実験により得られた技術等のマニュアル化・普及を通じた生産者の経営安定化や農業関連企業の活性化による地域の活性化も期待されている。

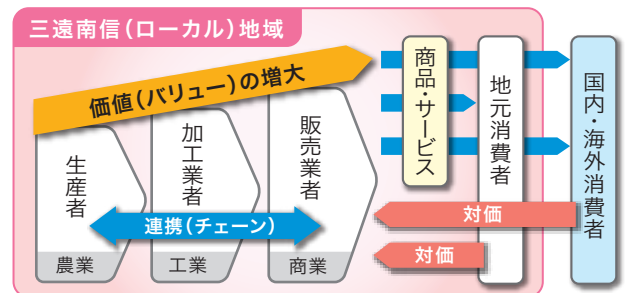
※国産品種を1000平方メートルで栽培し、平均的な農家の収穫量の2倍以上に相当する、1年間で50トンを実際に収穫(可販果重量)



IGHプロジェクト <http://www.tsc.co.jp/igh/>

「ローカルバリューチェーン構想」

地域の農産物の「価値(バリュー)」を地域の事業者が継承しつつ、新たな「価値」を付加して国内外の消費者に届ける仕組みづくりを目指し、商品開発・販路開拓、ローカル流通の改善、アグリ・フードビジネスの起業等の検討に取り組んでいる。



また、優位性の表示による差別化が可能となる「機能性表示食品制度」「地理的表示保護制度」等の活用に関する相談・支援窓口の開設、ブランド力を高めるメニューを開発し、アンテナレストランでの提供を行う「乙女の食卓」事業、海外販路拡大に向けた海外商談会への出展やネット販売等の取り組みも、同構想の実現に繋がるものと期待されている。

おわりに

農業を取り巻く環境は、今後、TPPや後継者不足等により、さらなる変化が想定される。中経連としても、農業ビジネスの活性化に向けた調査・研究を進めていく中で、今年設立10周年を迎え、「食」「農」の新たな価値創造を目指してチャレンジし続ける同協議会の活動に今後も注目していきたい。

(静岡・東三河担当 久保田 孝重)

取材協力・画像提供:(株)サイエンス・クリエイト